

台風 15 号災害甚大！

千葉県・国の初動の遅れはなぜ？

千葉県に上陸した台風 15 号は風速 50m以上の風が吹きあれ、多くの家屋の損壊、樹木の倒壊、電柱・鉄塔の倒壊で甚大な被害をもたらしました。64 万戸以上の停電と 8 万戸以上の断水といったインフラもストップ状態。しかもこの被害状況が台風が過ぎた 9 日から一週間たっても把握できていない状態です。(2019 年 9 月 21 日現在)

千葉県はなぜか災害対策本部を台風が過ぎ去ってから丸一日以上たって 10 日の午前 9 時に立ち上げる状態で、県下 54 市町村の被害状況もまったくつかみきれれていません。把握できていないのは“市町村が被災情報を上げてこなかったから”とまるで他人事。12 日まで県職員を各自治体に派遣することなくすごしていました。



千葉県の防災計画を 8 年半前、3・11 の地震・津波・液状化に対して電話・携帯電話が通じない等ライフラインの問題が出され真剣に検討したにもかかわらずです。

3・11 のときは地震後 1 時間後に県の災害対策本部が設置されたのに、今回は丸一日以上立ち上げなかったのはなぜ？

千葉県知事が現地視察したのは 9/14 が始めて(江藤農林水産大臣の視察とともに)。なぜすぐ視察をしなかったのか？

又、東電が停電に対して 40 台の電源自動車を出したとの情報が入ったときなぜ知事は 100 台の、1000 台の要請をしなかったのでしょうか？(一国のトップである安倍首相もなぜ要請しなかったのでしょうか?)。状況把握も全体状況について連携できない状態が発災後一週間以上続いているのは行政の怠慢以外のなにものでもありません。

初動が遅れたためその後の大雨でさらに家屋の損害も拡大してしまった(人的二次災害です)。ブルーシート等で屋根を防護するために 9 日から自衛隊に要請し現場に入ってもらいいち早く対策をとるべきであった。何をしていたのだろうか？

安倍首相にいたっては 9/9 から 9/11 まで内閣改造に明け暮れて千葉県の災害にはまったく見向きもしなかった。9/13 に初めて経産省の停電対策本部が設置されたのです。かつて小渕首相は 1999 年茨城県東海村で放射能漏れの事故が起こったとき防災対策を優先して内閣改造を延期しているのです。

安倍首相の初動のなさ、千葉県知事の初動のなさ、東電の伝達情報のいい加減さ、いったい 3・11 の何を学んだのでしょうか？

鋸南町・南房総市～山武市・八街市などなど多くの住民の家屋の屋根の崩壊への支援、一日も早い電気・水の確保を日本の防災力の総力を上げて対処すべきです。

発災から 3 日間は各自でと市民の自助が語られますが、“公の役割”を忘れたならばひとつの災害がより大きな災害へとになってしまう例が今回の千葉県の被災状況です。停電でクーラーも使えず熱中症で亡くなった方、屋根に上ってシート張りで落下してなくなった方、被害が拡大です。

復旧・復興を全面的に展開するのが今の喫緊の課題ですが、今回の初動のなさの原因を根本的に明らかにする必要があります。